

【第2回横浜市精神障害者生活支援センター指定管理者選定委員会 議事録】

日 時	平成18年2月3日(金) 9:00~12:15(プレゼンテーション及びヒアリング) 13:00~14:30(書類審査)
場 所	松村ビル別館 502会議室
出席委員	助川征雄委員長、米倉令二副委員長、菊地綾子委員、桑原寛委員、日浦美智江委員
欠席委員	なし
事務局	衛生局保健部長、福祉保健連携等担当部長、精神保健福祉課長、精神保健福祉課施設等担当係長、担当職員
傍聴者	9名

※プレゼンテーション及びヒアリングのみ公開で行われた。

次 第

1 議事

(1) 公募説明会及び応募状況等の報告

【事務局説明】

- ・平成18年1月6日(金)に開催された公募説明会は、5団体の参加があった。
- ・1月6日(金)から1月13日(金)までの公募要項への質問書の受付期間に、質問書の提出はなかった。
- ・1月23日(月)から1月27日(金)までの応募書類の受付期間に、4団体から応募書類の提出があった。
- ・本日のプレゼンテーションを行う順番は、くじ引きにより、第1番目は社会福祉法人 横浜市社会事業協会、第2番目は社会福祉法人 横浜愛隣会、第3番目は社会福祉法人 伸こう福祉会、第4番目は財団法人 横浜市総合保健医療財団と決定した。

(2) プレゼンテーション及びヒアリングの実施

①社会福祉法人 横浜市社会事業協会

●プレゼンテーション

- ・ 当日配付資料に基づき法人が説明。(別紙1)

○ヒアリング(委員の質問に法人が答える形式で実施)

- ・ **利用者については、あくまで精神をメインと考えて良いか。**
→ 良い。得意分野が精神であるが、他障害からの相談をまったく受け付けないというわけではない。
- ・ **家族の利用についてはどのような考えを持っているか。**
→ 当事者以外、もちろん家族についても利用してもらいたい。
- ・ **施設に来館することができない人への対応はどのようなものを考えているか。**
→ 電話をまず1本もらえれば、そこからつながりを持って区や医療機関とも連携して訪問をしていきたい。
- ・ **近隣区生活支援センターとの連携についてはどう考えているのか。**
→ 今後整備が予定されている金沢区・南区については国基準型であるため、開所時間が短い(8時間/日程度)。そこで、開所していない時間帯にこのセンターを利用してもらいたい。

※当日配付資料及びこの回答に関し、金沢区については現在、市会にて予算審議中であること、南区については現在生活支援センター設置に向けた準備が区内で始まっている、という段階であり、整備が確定しているわけではないことを注意してもらいたい旨、プレゼンテーション終了後に事務局から委員及び傍聴者に対して補足説明があった。

- ・ **現在運営している保土ヶ谷区生活支援センターにおける課題は何か。**
→ 他施設での利用になじめなかった人への対応が一番の課題。声の様子や、その日の本人の状態などに配慮している。
- ・ **当事者の就労について、何か実績はあるのか。**
→ 保土ヶ谷区生活支援センターでは館内清掃を近隣作業所に委託しているが、その際の工賃を県の最低賃金である1時間あたり708円を上回る710円を出している。利用者からもいつも館内がきれいとの評価をもらっている。

- ・ よこはまりパーサイド泉におけるショートステイの待機状況はどうか。
 - 待機状況はこの場ではわからないが、利用状況については稼働率98%である。
- ・ 退院促進について、どのような病院との連携が強かったのか。
 - 特に神奈川病院が熱心だった。その他にも多くの病院と連携を取っている。
- ・ 夜間の利用者の救急対応についてはどう考えているのか。
 - 現時点では、残念ながら夜間等の救急対応についての具体的取組はできていない。そのため、利用者の病状をできるだけ把握するよう努めている。
- ・ 「いそご地域活動ホームいぶき」との連携について何か実績はあるか。
 - まだ指定管理者となったわけではないので、今回の磯子区生活支援センターに関する件では特に実績はない。
- ・ 障害者自立支援法における相談支援事業所への移行についてはどう考えているのか。
 - 移行するには市から委託されることが前提ではあるが、ケアマネジメント研修に参加するなど、準備をしている。
- ・ 相談事業をするにあたり、ネットワークはあるか。
 - 他機関との研修を通して、職員同士のネットワークはある。

②社会福祉法人 横浜愛隣会

●プレゼンテーション

- ・ 当日配付資料に基づき法人が説明。(別紙2)

○ヒアリング(委員の質問に法人が答える形式で実施)

- ・ 応募書類の中に「ひきこもり対策」とあるが、どのような取り組みを考えているか。
 - ひきこもりについては、実際は親による「抱え込み」というケースも多い。現在、民衆館でも通所事業(訪問)を行っているので、生活支援センターと一体となって取り組んでいきたい。
- ・ 現在運営している施設における、男女の利用状況はどのようなものか。
 - 民衆館は男性のみの施設であり、女性利用者に対する経験が少なく、これが弱みだと思うが、生活支援センターでは、職員の雇用を工夫し、対応していきたい。

- ・ 地域との交流を図るうえで、どのような取り組みを行っているのか。
 - 法人理事長が地元の町内会長をしており、現在、町内清掃等を行っている。
- ・ 利用者に対してどのような理念に基づき支援していくのか。
 - また、精神障害を持つ人が地域の中で理解を得ることができるような方法は何か考えているのか。
 - そのままの状態を見守るか、本人の成長・変化を目指すのかということとは非常に悩むところではあるが、人間には誰も「変わりたい」という衝動を持っていると考えており、それを信じて、その人に応じた支援をしていきたい。
 - また、当事者ができるだけ地域と接する場を設けたいと考えている。

③社会福祉法人 伸こう福祉会

●プレゼンテーション

- ・ パワーポイントを使用して法人が説明。(別紙3)

○ヒアリング(委員の質問に法人が答える形式で実施)

- ・ 生活支援センターまで来ることのできない人への訪問について、どう考えているのか。
 - どこにそのような人がいるのか、区と連携し、できる限り情報を集めて訪問したい。その際、ケアプラザ職員である看護師とチームになって訪問することも考えている。
- ・ 家族会に対する支援はどう考えているのか。
 - 今後、指定管理者として選定される、されないに関わらず、家族会に顔出しをしていきたいと考えている。
- ・ 他機関との連携についてはどう考えているのか。
 - この地域での実績がないことが逆に強みと考えている。何事も教えてもらう姿勢で取り組んでいきたい。
- ・ 障害者自立支援法に対する対応はどう考えているのか。
 - 支援法施行に伴い、経済的負担が大きくなると考えられるが、その際夕食を300円としたが、これは1つの売りになると考えている。また、これまでも職員の雇用をするにあたり、当事者を受け入れてきたが、この施設においても利用者について、ボランティアから始め、有償ボランティアさらには非常勤職員として採用することも考えている。

- ・ 症状が悪化した場合の対応及び地域医療機関とのネットワークについてはどう考えているのか。
 - 本人及び家族の意向を聞いたうえで病院に行ってもらおう。また、医療面については、さいとうクリニックにバックアップをしてもらうことになっている。
- ・ 職員の研修についてはどう考えているのか。
 - 先輩職員とのマンツーマンから始まり、外部講師を招いての研修も行う。また、職員の外部研修への参加についても取り組んでおり、参加費については全額補助としている。
- ・ 行政に対して何を望むか。
 - 情報提供や相談を気軽にできるような関係を築き、連携をとっていきたい。

④財団法人 横浜市総合保健医療財団

●プレゼンテーション

- ・ 応募書類に基づき法人が説明。

○ヒアリング（委員の質問に法人が答える形式で実施）

- ・ 職員数には限りがあると思うが、これだけのビジョンを行うには何か仕掛けはあるのか。
 - 応募書類のとおり、職員については財団職員を充てることを考えている。神奈川県生活支援センターで行っている事業を再点検し、このセンターでの事業内容に活かしていきたい。
- ・ 家族会に対する相談はどのように行っていくのか。
 - まずは家族会の意向を伺いたい。そのうえで、必要に応じては専用ブースを設けることも考えている。
- ・ 「インシデントレポートの有効活用」とあるが、実績は、また、活用はできているのか。
 - 実績としては、月に数件である。内容については、同じようなものが多いが、1つ1つ対応していきたい。
- ・ 財団はベテラン職員は多いと思うが、若手職員についてはどうか。
 - 30代の職員が多く、若手は嘱託採用となっている。
- ・ 職員同士が意見交換をする場はあるのか。
 - 各層の会議は頻繁に行っており、全職員会議も年に数回行っている。

- ・ 身体・知的との連携及び事業展開についてはどう考えているのか。
→ まずは相談事業から、他方面との連携をとっていきたいと考えている。
- ・ センターの利用促進についてはどう考えているのか。
→ センターの利用については、口コミ等、利用者間でのネットワークによるところが大きい。その結果、職員も訪問等、外に出やすくなったことから今回の磯子についても利用者とのつながりを大事にしていきたい。
- ・ 財団の内部施設だけでなく、他の民間機関との連携はどう考えているのか。
→ 他団体とも連携をとっていきたいと考えている。また、財団についても1つの資源と考えている。

《傍聴者退場・休憩》

(3) 書類審査

- ・ 各団体への評価は、第3回委員会までに判断することとし、本日の書類審査では、委員相互によりプレゼンテーション及びヒアリングの内容を踏まえ、応募書類の内容確認を行い、書類への理解を深めることを目的とすることを決定。

①社会福祉法人横浜市社会事業協会について

主な発言

- ・ 家族に対する支援についての記載や説明が少なかった。

②社会福祉法人横浜愛隣会について

主な発言

- ・ 対本人についてはきめ細かい対応がなされているようだが、地域との協働・連携についてはまだノウハウもなく、少し弱い。
- ・ 現在運営している施設の入所者はすべて男性であり、女性に対する対応については職員の経験が少ない。
- ・ 地域の社会資源について、非常に良く調べてある。
- ・ 社会復帰や自立のため、本人を訓練していくというように感じられたが、社会の方を変えていくというような働きかけも必要なのではないか。生活支援センターには、何もしないでゆったり過ごす人も多く、「何もせずにいられる場所」があることが必要である。
- ・ 医療資源との連携があまりないようである。

③社会福祉法人伸こう福祉会について

主な発言

- ・ 現場の事は良く掴んでいるが、横浜市全体の施策との関連については弱い。
- ・ 現場の声を聞きながら、形にとらわれず新しいものを作っていくという姿勢がはっきりしており力を感じる。
- ・ 生活支援センター利用者を雇用にまで結びつけている提案は良いと思う。
- ・ 入浴、食事その他のサービスの提供についても具体的な内容が提案されており、内容もおもしろい。
- ・ 相談については、保健師や看護師等含めた具体的な対応を提案しており、また、精神科の医師とも繋がっているので、これは強みである。

④財団法人横浜市総合保健医療財団について

主な発言

- ・ 横浜市の施策だけではなく、障害者自立支援法における就労支援や退院促進といったことについても具体性が感じられる。
- ・ 総合保健医療財団自体がひとつの地域資源だということが強みである。
- ・ 収支予算計画については、計画性等含めきちんとしており実現性は高いと思う。

(4) その他

2月20日(月)に第3回選定委員会を開催するが、次回の委員会までに採点表の素案を完成しておくことを、委員長から各委員に依頼。次回の委員会では全員の素案をもとに意見交換を行い、各自の素案で直したい箇所があれば修正することも可能とすることで決定。